

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果等について

小学6年生と中学3年生を対象としたみだしの調査が、4月19日に実施されました。現在、各学校で調査結果の分析・検証を進めており、今後、自校の課題を踏まえた指導の改善に一層取り組んでいくところです。

つきましては、多治見市全体の傾向をお知らせしますので、お子さんの学習習慣や生活習慣を見つめ直す際の参考として活用いただきますようお願いいたします。

1 学力調査の結果より

調査を行った教科全て「国語、数学、理科」の平均正答率については、国・県の値をやや上回っています。

また、各調査結果から今後付けたい力として、以下のことを挙げるすることができます。

【国語】意見文等で、引用の仕方、引用する目的や効果について考えて書くこと

【数学】データから傾向を的確に捉え、判断の根拠を数学的な表現を用いて説明すること

【理科】自然の事物や現象について、時間的・空間的などさまざまな視点で捉え、実験結果や観察したことを分析・解釈し、自分の考えをもつこと

ご家庭では、学校から配付される個人票を参考に、正答数（率）だけでなく、誤答の自己分析から課題を見つけましょう。今後努力することを、お子さん自身が自己決定できるようなふり返しとなるようお声がけをお願いします。

2 質問紙調査の結果より

質問紙調査において国や県の傾向とは異なった結果（上下に1ポイント以上の差があった問い）から主なものをまとめると、以下のようなことがいえます。

<学習習慣>

- ・一日の家庭における学習時間(月～金)2時間以上が約40%で国を上回っています。
- ・1日当たりの読書時間は、国や県よりも上回っていますが、30分以上読書する割合は約30%です。どの教科も、読書の時間が長いほど正答率が高い傾向にあります。
- ・学級の仲間と話し合う活動の中で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる割合は、国を上回っています。
- ・自分の考えが伝わるように工夫して話すことは約20%で苦手な傾向にあります。

<生活習慣>

- ・自分にはよいところがあると思う割合は、約35%で国と同等ですが、小学校と比較すると低い傾向にあります。
- ・毎日、朝食を食べている割合は約80%で、国・県と同等です。毎日同じくらいの時刻に寝ている割合は国や県よりもやや上回っていますが、約40%であまり高くありません。どちらも習慣になっている子ほど正答率が高い傾向にあります。
- ・難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している割合は国や県を上回っていますが、市の割合は約20%と低いです。挑戦していると回答した子は、していないと回答した子に比べて、正答率が高い傾向にあります。
- ・地域行事への参加など、地域や社会への関心は、国と同等です。

本調査からも、家庭や学校での学習習慣・生活習慣が学力にも大きく関わっていることは明らかであり、『習慣』は、意識して努力を続けることにより必ず改善できます。

家庭と学校が協力し、子どもが望ましい習慣を身に付け、将来の自立や個性豊かな自己実現に向かっていくことができるよう、今後ご理解とご協力をお願いいたします。